

ティーチング・ポートフォリオ



大学名 東京都市大学
所 属 共通教育部 人文社会学系
体育教育部門
名 前 椿原 徹也
作成日 2022年8月30日
修正日 2022年9月19日

1. 責務

共通教育部人文社会学系体育教育部門に所属し、スポーツのコーチング、社会医学を中心に教育、研究活動を行っている。主たる教育活動は、体育に関連する科目である基礎体育、応用体育（通常授業・集中授業：ゴルフ・スノーボード）、スポーツ健康論、ゼミナール（スポーツコーチング、スポーツ戦略戦術、生涯スポーツゴルフ）を担当している。

学内においては、学生部委員、体育会顧問、ラグビー部顧問において学生活動、課外活動における支援を行っている。

また、日本ラグビーフットボール協会においては、女子委員会の委員長として女子ラグビーの普及発展のための活動を行っている。

2. 理念

1. 自らが学び続け、自らがスポーツや授業を楽しみ、何歳になっても学生と共に動き、実演と説得力を持って伝え続けられるよう努力する。

「学ぶことを辞めたら教えることもやめなければいけない」との言葉を信念に、授業、課外活動など学生に教えるにあたり、最新の技術、手法を学び続ける。また、学生はもちろんのこと、自らも楽しむことをモットーに、体を鍛え続け、技術においても高め続け、何歳になっても一緒になって競い、楽しく授業を作り上げていく。

2. 学生においては、目標や夢を明確にし、それに向かってチャレンジ、努力し続ける大切さを育てる。

何事においても目標を短期、中期、長期としっかりと明確に持つことが大切であり、それを見据えて短期目標からしっかりと努力すること、チャレンジすることの大切さを伝える。また、成功へのできる限りのサポートをし、失敗したとしてもそこから学び、再チャレンジする精神力を養えるよう支援をする。

3. 社会で活躍するための人材を育成する。

挨拶、時間を守る、コミュニケーションなど人として当たり前のことをしっかりと実践できるよう自ら徹底し、学生にも徹底させる。また、リーダーシップ、フォロワーシップ、ストレスマネジメント、先を考えて行動するなど、社会で活躍するために重要な能力を自ずと身につけられるよう、学生主体を意識させ、授業、課外活動においてその方法論や考え方を伝える。また、体の健康はとても大切なため、運動、栄養、休養といった生活習慣の重要性、実践方法を伝え、健康で活躍できる人材の育成を様々な側面から育成する。

3. 方法

上記の理念を実践するための方針として、「自らが見本となる」、「目標の大切さを伝える」「社会で活躍するために必要なことを伝える」「健康に大切な行動、知識を伝える」を重視して授業を行っている。

方針1 自らが見本となる

- ・挨拶の徹底（自らが大きな声で挨拶を行う）
- ・授業時間をも守り、授業開始時にスタートできるよう準備をしっかりと行う
- ・より良い授業実践のため講習会や本などで学び続ける
- ・学生に負けないよう筋力トレーニングで体を鍛え続け、実技（ゴルフ・スノーボード）においては技術向上を常に目指し、学生の手本となる。
- ・一方的なティーチングにならないよう相互コミュニケーションが図れるようなコーチングを意識し、対等な関係で会話できるようにする（通常でも話しやすい雰囲気を作る、授業においてはWebclassでの質問や感想のやりとり、課外活動では、対面とLINEの使い分けを意識する）

方針2 目標を持つことの大切さを伝える

- ・実技実施による成功体験によって目標達成の楽しさを伝える（学生の達成したことへの評価）
- ・動画や言葉により成功体験者の行動、活躍しているスポーツ選手の実例を伝える
- ・目標を短期、中期、長期と分け、それを明確化し、それに向けて行動すること、フィードバック、改善することサポートする（PDCAサイクルの実施）

方針3 社会で活躍するために必要なことを伝える

- ・挨拶、時間を守るといった当たり前のことを自ら実践しながらしっかりと大切さを伝える
- ・自分が中心とならず学生が中心となり、主体的な活動を中心に行う中でそれを支援する
- ・コミュニケーションが取れるような時間や雰囲気を作る
- ・リーダーシップ、フォロワーシップがどのようなものかを伝え、自分に合った役割が何かを明確化させる

方針4 健康に大切な行動を伝える

- ・スポーツの楽しさ、体を動かすことの楽しさを伝え、生涯続けてもらえるようにする
- ・運動・栄養・休養のバランスの重要性を研究に基づいて伝え、生活習慣を正せるようにする
- ・健康への感謝をしながら一日一日を大切に過ごしてもらえるよう命の大切さを伝える
- ・スポーツが嫌いな学生にも楽しんで動いてもらえるように工夫をする

4. 成果

- ・ベストレクチャー賞（2018、2019、2021）
- ・都市大教育フロントランナー賞（2020）
- ・ラグビー部 全国地区対抗大会優勝（2002、2004）、関東理工系リーグ優勝（13回）
- ・ラグビー部 コロナ禍での部員増加（2022）
- ・体育会 全体の部員増加（勧誘活動の強化）（2022）
- ・体育会 体育祭実施（3年ぶりの実施）（2022）
- ・女子ラグビー発展への寄与（2003～2004、2019～2022）
- ・SAJ 全日本スノーボード技術選手権 出場（2008）
- ・SAJ スノーボード指導員 資格取得（2010）

5. 目標

短期目標

今回の TP 作成において個人としての特色というものが記載できていなかったため、理念を達成するために独自の特色ある取り組みを明確化していきたい。

長期目標

学生が自分に出会ってよかった、都市大に来てよかったと思えるような教育者となる。

【添付資料】

- ・シラバス
- ・オンデマンド教材
- ・授業動画
- ・授業評価アンケート
- ・都市大教育フロントランナー賞の賞状
- ・ベストレクチャー賞の賞状
- ・ラグビー部のトロフィーや賞状（全国地区対抗大会優勝や関東理工系優勝）
- ・日本スキー連盟 スノーボード指導員 資格
- ・日本ラグビーフットボール協会 A級コーチライセンス
- ・日本スポーツ協会 ラグビーフットボールコーチ3ライセンス